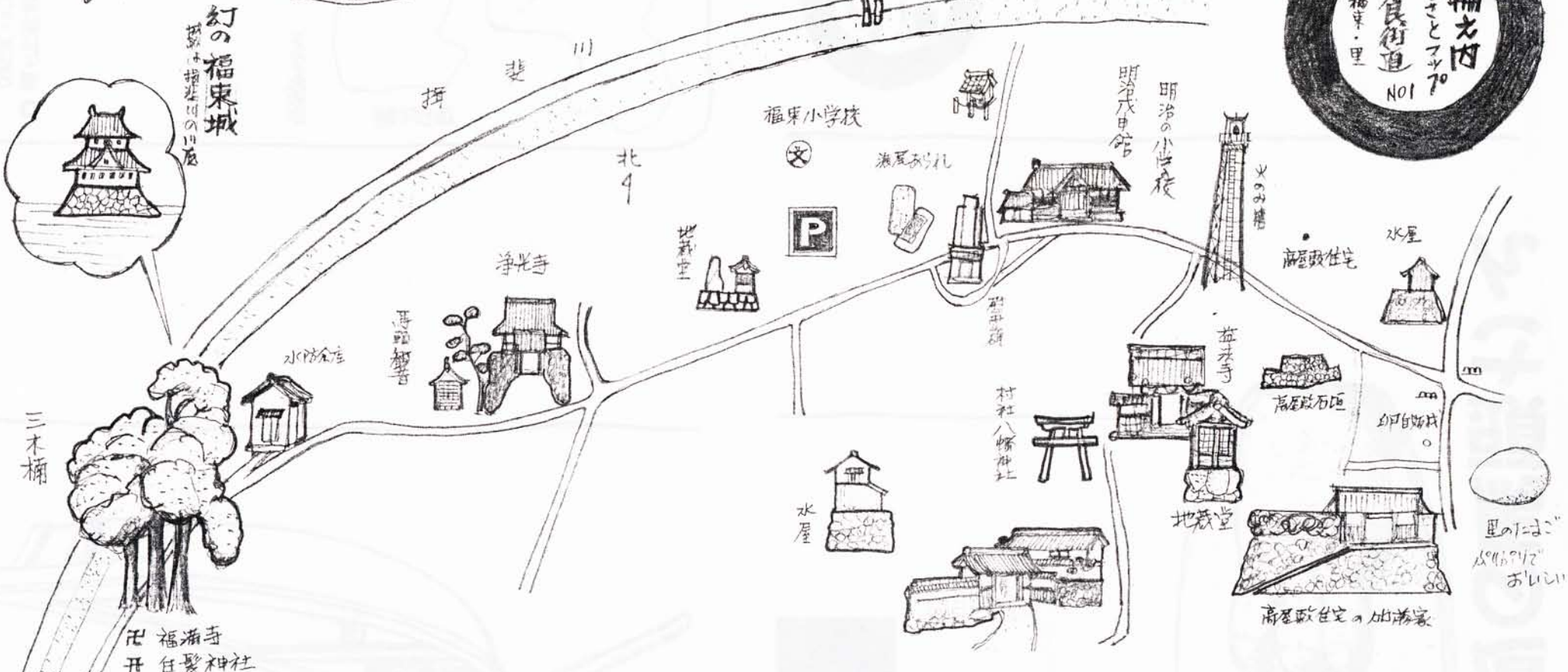


水郷の里・輪中の大地



多良街道・福東地区

見字・ネタ

- ・ 里の「はこ」が「おいらい」
- ・ 鎌倉時代からの村園
- ・ 福東城の城下町
- ・ 高屋敷住宅、かたみまき
- ・ 明治の小学校、戊申館

水郷地帯の高屋敷住宅と水屋

水郷地帯であり、家々には数々の水郷の特色が残っている。石垣の上に住宅が建つ高屋敷住宅や、水屋など独特の家風が多い。特に里地区には土壁の上に立つ住宅が二軒ある。

里は、数学者藤島簡齋の出身地

一八〇八年に尾張藩の和算の大家藤島簡齋は、里村で生まれた。算書は、簡齋著した算書は町指定の文化財である。簡齋の威徳をしのぶ頌徳碑を里の益光寺に建立した。

三本桶の大水

福東の一番西にお医者さんが二軒あるが、北側の家に、三本の桶がある。見上げるような大木で、三本並んだ姿は、何とも頼もしい。輪之内町には巨大大木が多く、水害対策に植えられたものが多い。

明治の小学校・戊申館

輪之内町に残る小学校の遺構の一つである。〇〇氏が資材を投じて移築した物で、往事の姿を良くとどめている。

上げ舟と高屋敷住宅

高屋敷住宅の加藤家には、現在まで上げ舟が伝えられている。典型的な水郷住宅で広い敷地で長期間の生活ができるような造りとなっている。

粥のつけで作柄を占う

白髯神社と八幡神社には、その年の作柄を占う「粥のつけ」という神事を継承している。毎年一月十五日に行われる。

福満寺の版木 彫刻

